

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホーム とよおかの里		
所在地	兵庫県豊岡市香住1272 (電話) 0796-29-5533		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(平成20年 5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(5月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	1	要介護 2	2
要介護 3	3	要介護 4	2
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 85.8 歳	最低 70 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立 豊岡病院
---------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設周辺は、のどかで広大な自然が広がり、四季を通じて、季節の移り変わりを肌で感じられる環境にある。また法人施設と併設であるため、事業所内も広くゆとりを持ったスペースが確保されており、居住環境が整っている。行事やクラブ活動等の利用者間の交流も図られ、合同研修に参加するなど、職員育成においても大きな利点がある。地域密着型サービスとして事業所の理解や意識が深く、地域交流活動が地道に行われている。"笑顔で楽しく"を理念とし、まわりのすべての人が笑って暮らせる環境作りに全職員で取り組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	昨年度の評価結果内容や評価の目的について、職員間で確認し、事業所独自の理念作成や運営推進会議開催、市町との連携等、改善課題について話し合い、改善に向けて熱意を持って実践されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員全員に外部評価を実施する意義や目的について勉強会を持ち詳しく伝え、深く理解した上で、今回の自己評価を全員で取り組まれており、ケアの振り返りやサービスの質確保に活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	幅広い立場のメンバーで構成されており、地域密着型サービスとしての取り組みや、認知症の日常のケアについて報告説明している。更に評価の公表内容や改善項目について今年度に討議予定があり、改善経過のモニター役として積極的な参加を呼びかけ、運営推進会議の定期開催に向けての取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	個人的な要望や意見は面会時に収集し、対応している。また事業所運営に関することは、会議で事業所全体で検討し、日々のケアの質向上の実践に反映できるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	事業所の行事に地域の人に参加してもらったり、地域の夏祭りや小学校の行事に利用者、職員で参加するなど交流が行われている。さらに住民の一員としての役割を担う取り組みに努めている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、地域密着型サービスの意義や、地域生活の継続支援について職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	話し合いの場や日常の関わりの振り返り時に、必ず理念に立ち戻り、深めていけるように、職員全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等の地域行事や小学校の行事などに積極的に参加したり、地域の人々と日常の相互交流等にも努めている。		現在、取り組まれている地域活動や地域の人々との関わりを広げる基盤づくりを継続しながら、地域で暮らす住民の一員としての役割を担っていく、更なる事業所の努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価結果や改善項目について話し合い、事前に評価のねらいや、具体的な活用に向けて勉強会を開き、職員全員で今回の自己評価に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については、昨年度2回開催し、家族代表、地域役員、地域包括職員、小学校長、公民館長等、幅広い立場のメンバーで構成され、事業所の取り組みや役割を理解してもらえるように、積極的な働き掛けが行われている。</p>		<p>外部評価の評価結果報告や具体的な課題について、率直な意見を引き出し、地域の理解と支援を得るために、定期の運営推進会議の開催の取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービスになってからの介護予防の契約書作成について市に相談したり、運営上の課題や監査指摘事項等を尋ねるなど、連携を取るように努めている。</p>		<p>運営推進会議に参加してもらえるように働きかけたり、日常のサービス課題についても、市の担当職員と連携をとり、一緒に問題解決を図れる取り組みに期待が持てる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事業所での利用者個々の毎日の暮らしぶりの記録や写真を、毎月家族に送付している。3か月に一度は金銭管理帳を送っている。家族が来られた時には、詳しく報告したり相談する機会にしている。心身の状況については、問題や変化に応じて随時連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所の玄関棚の上にコメント用紙を設置し、自由に要望や意見を書ける取り組みがなされている。苦情マニュアルや苦情ノートを作成し、職員全員で家族が気兼ねなく意見を言える環境作りに努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職や異動時には届け出を早期に提出し、引き継ぎ期間は十分に設定し、馴染みの関係が損なわれないように配慮されている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、全ての職員が地域密着型サービスの従業者として質を向上していけるように、内外の研修を受ける機会を確保し、計画的に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の相互の情報交換については、今のところ電話で管理者間でやり取りが行われている。市内の同業者連絡会の発足や連携に向けての取組みが今後の課題である。		運営者・管理者がサービスの質向上を目指し、同業者間の交流の必要性を認識されており、地域全体として実践的な連携や交流の取り込みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、見学や面接で十分説明を行い、雰囲気馴染めるように、家族に事業所に来て頂いたり、宿泊されたり、電話で話しをする等、利用者一人ひとりが安心してサービスを受けれるように、家族と共に段階に応じた支援の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮し、料理の手順や田畑の作業について生活文化の大切さや、花作り等職員に教えてもらったり、お互いが協働しながら生活できるように配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の係わりの中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望把握に努めている。把握が困難な方には日々の行動や表情から汲み取ったり、ご家族や関係者からの情報を得ている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞きながら、職員全員でカンファレンスを行い、利用者の視点に立った具体的な介護計画作成に取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月ケース担当者がモニタリング、評価を行い、職員全員でユニット会議においてカンファレンスし、本人・家族の意見を取り入れながら、6ヶ月定期の介護計画の見直しを行っている。また、状態変化に応じて、随時、個々に見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制が充実しており、通院時の移送サービス、重度化した場合の支援等、利用者や家族の状況に応じた事業所の多機能性を生かした柔軟な対応が行われている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が協力医に変更しているが、変更時にはかかりつけ医や家族、本人と十分に話し合い職員が通院介助を行っている。また、歯科や整形等複数のかかりつけ医への受診は、連携を取りながら家族と協力している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には、本人・家族の重度化に伴う意向や希望を確認し、職員に看取りケアマニュアルに沿って研修を行い、急変時の医療面の協力体制を整備している。状態の変化に注意を払い、終末期を職員全員で気持ちよく支援できるように取組まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービスマニュアルを入職時に渡し、一人ひとりの人権やプライバシーを尊重した言葉遣いや接し方について研修し、ユニット会議で、個人情報保護やプライバシーの保護の徹底に継続して努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や場所など、利用者の生活のペースに合わせて支援が行われている。外出等の希望は、その時の本人の気持ちを尊重しながら、職員間で工夫し柔軟に対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成に利用者の希望を取り入れたり、一緒に買物に出かけ、食べたいお惣菜、新鮮な季節の魚や野菜を買ったり等、「食」を通じた取り組みがされている。準備や片付け、食事を楽しく一緒に食べるように、配置場所等の配慮が工夫されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回程度は入浴できるように、生活習慣や希望に応じて支援を行っている。拒否のある方には対応に工夫し、夜間汚染のあった方には随時入浴頂いている。温泉に出かけて入浴するなど一人ひとりの好みに合った入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野で、食事作りや草取り、掃除等、毎日の暮らしの中で役割を持ってもらったり、音楽活動や刺繍、写経など楽しみごとを支援する働きかけや場面を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、犬の散歩、午後の余暇活動として季節の花見やドライブなど、一人ひとりが外出を楽しむ支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しようとしたら、その日の気分や様子をキャッチし、一緒について行ったりさりげなく声をかけたり、日中はできる限り鍵をかけずに安全に過ごせる工夫をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	消防署の協力を経て年に2回、利用者、職員共に避難訓練等を行い、緊急時の連絡網の確認等を行っている。		地域住民や警察、消防署等への理解を求め、災害時対策に関する具体的な支援体制の整備に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一日の水分量や栄養摂取量を職員が把握しており、チェック表に食事量や水分量を記録し、職員全員が常に意識しながら、飲食量の低下を防ぐ支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	食堂、デイルーム、台所、職員カウンターが明るい広々としたワンフロアになっており、自然いっぱいの大きな庭へと続いている。フロアの壁には、利用者の手作りの作品や、季節の花があちらこちらに飾られ、風情ある、落ち着いた環境が提供されている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は、利用者の生活スタイルや個性に合わせて、家具、鏡台、自宅から持ち込まれた仏壇、家族の写真を傍に置くなど、その人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。		

 は、重点項目。